KOKUSHIKAN SOCIETY OF
SPORT SCIENCE
No.23, 69-78, 2023

実　践

体育系小学校教員養成における小学生との英語授業
―ICTを活用した交流・遠隔学習―

English classes through ICT with elementary school kids and the students in a teacher training course related to physical education

五十嵐　浩子

Hiroko IKARASHI

1．はじめに

小学校教員養成課程外国語（英語）コア・カリキュラム[1)]（以下、コア・カリという）は「外国語の指導法【２単位】」と「外国語に関する専門的事項【１単位】」で構成されている。このコア・カリでは、小学校において外国語活動・外国語の授業を行うためには、国際的な基準であるCEFR B1レベル（英語検定準１級レベル相当）の英語力を身に付けるよう求めている。

こどもスポーツ教育学科は、体育が得意な小学校教員の養成を掲げているものの、学生の英語力及び英語学習に対する苦手意識は強い傾向がある。外国語科目以外では、「英語概論」、「小学校英語」、「教科教育法（英語）」のわずか90時間の授業で小学校の外国語活動・外国語科の授業実践に自信がもてるとは考えにくい。また、教科教育法で模擬授業を実施しても、「教育実習では学生の反応と児童の反応は全く違う」といった否定的な意見も聞かれ、英語学修に対する意欲喚起が課題となっていた。

そこで、少しでも英語に興味をもたせるため、学科内の有志による海外の小学生とのweb会議システム（以下「zoom」）による交流を実施した。成果もあったが、交流先の開拓、相手校との打ち合わせや学生への指導等の準備、現地小学生の英語の分かりにくさなど実施上の課題もあった。そのため、国内の小学生とオンラインでつながり、大学生を相手に小学生が英語を伝えたり、簡単なやりとりをしたりする英語授業を実践することとした。

2．外国語教育とICT

外国語教育とICTの親和性は高いと言われている。かつてはレコードやカセットレコーダ、CDなどの音声機器が用いられ、ICT技術がさらに進化した現在はタブレット等に形を変えた。

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語活動・外国語編では、コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用により、指導の効率化や言語活動のさらなる充実を図ることが明示されている。

「外国語の指導におけるICTの活用について」[1)]は、令和元年度の英語教育実施状況調査について「今後、児童生徒自身がICT機器を操作する活動

国士舘大学体育学部こどもスポーツ教育学科（Faculty of Physical Education Department of Sport Education for Children, Kokushikan University）

やインターネットを活用した遠隔地の教師・児童生徒等とつないでコミュニケーションを取るといった活動に、さらなるICT機器の活動が望まれる」とまとめている。令和３年度の同調査[2]では、「教師がデジタル教材を活用した授業」が99.0％の小学校で実施されているのに対して、ICT機器を用いれば可能となるはずの「児童生徒が遠隔地の児童生徒等と英語で話をして交流する活動」は8.6％、「遠隔地の教師やALT等とティーム・ティーチングを行う授業」は6.5％となっている。図１にあるようにそれぞれの数値は令和元年度より上がっているが、教師がデジタル教材等を活用した授業には遠く及ばない。

コア・カリでは、教科教育法においてICT機器活用が必須となっている。小学校現場でICT活用した指導を可能にするため、教師のデジタル教材等を活用することはもちろん、１年次から学生自身が活用できるようにその経験を積ませてきた。模擬授業では、デジタル教科書提示や学習アプリを使った言語活動を指導する場面の設定、文書作成ソフトで作成した課題提出、音声録音や動画作成課題なども意図的に課してきた。しかし、模擬授業等は学生が児童役になっているため、児童が使用できる語いややりとりの実際を経験したことにはならない。「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」[3]（文部科学省，2018，p.72）には、学生自身がコミュニケーションを図ろうとすることが必要である。Zoomによる遠隔授業の経験は、小学校でも個人端末が整備された現在においては可能となった。したがって、授業の中で、ICT機器を活用して、交流・遠隔授業を経験させたいと考え、国内の小学校との交流の機会を模索していた。

３．オンライン交流までの流れ

3-1　交流校を探す

コロナ禍で、zoom等を活用した様々なオンライン研修等が盛んに開催されるようになった。その流れの中で、英語専科教員が発起人となって英

ICT機器の活用状況（小・中・高等学校）

		小学校	中学校	高等学校
ICT機器の活用を行った学校の割合		99.9%(99.1%)	99.9%(96.6%)	97.4%(91.7%)
具体的な活動の内容	教師がデジタル教材等を活用した授業	99.7%(99.0%)	98.8%(92.4%)	94.6%(88.9%)
	児童生徒がパソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動	80.1%(41.4%)	86.2%(44.0%)	69.7%(47.4%)
	児童生徒が発話や発音などを録音・録画する活動	54.7%(21.8%)	66.5%(36.6%)	49.7%(34.2%)
	児童生徒がキーボード入力等で書く活動	54.4%(20.3%)	76.5%(23.7%)	57.2%(29.8%)
	児童生徒が電子メールやSNSを用いたやり取りをする活動	3.1%(1.5%)	8.1%(3.7%)	18.8%(9.0%)
	児童生徒が遠隔地の児童生徒等と英語で話をして交流する活動	8.6%(3.0%)	7.7%(3.2%)	15.9%(5.9%)
	遠隔地の教師やALT等とティーム・ティーチングを行う授業	6.5%(2.8%)	6.9%(4.0%)	12.0%(6.3%)
	児童生徒が遠隔地の英語に堪能な人と個別に会話を行う活動	3.8%(2.0%)	5.2%(2.8%)	11.9%(5.8%)

【交流・遠隔授業】

※令和３年度英語教育実施状況調査結果【文部科学省】
（　）内は、令和元年度の値
※割合は、「ICT機器を活用した学校数」分子、全学校数を分母とした数値

図１　令和３年度英語教育実施状況調査結果（文部科学省）から筆者作成

語勉強会ネットワークが組織され始めた。愛知県小学校英語ネットワーク（AEEN）を皮切りに、関西小学校英語ネットワーク（KEEN）、宮崎外国語教育ネットワーク（MEEN）、沖縄県小学校言語教育授業研究会 英語部（琉EEN）などである。こうした組織は大学教員にも門戸を開いているので、筆者が参加したKEEN主催セミナーで交流校を見つけることができた。

交流校の教員によれば、児童が英語を話したり、発表したりする話題や内容はすでに共有されたことが多く、英語で伝え合うことに興味をもちづらいと考えていた。しかし、交流させるためのICT活用スキルや交流先の開拓などがネックとなって、実現には至っていないことがわかった。そこで、筆者がzoomをホストして、大学生と小学生を英語授業で交流させることで、大学生は小学生の英語を聞いて英語で反応し、英語のやりとりをリードする立場を経験すること、小学生は自分のことを知らない相手に考えなどを伝える目的・場面設定ができるWin-Winな関係を結ぶことになった。

3-2　交流先との事前準備

令和４年４月、交流を希望する６学年担任と準備を開始した。

〈小学校側の準備〉

①交流実施許可（管理職）
②保護者会で交流実施説明・保護者の承認
③児童の指導（他学級担任との調整含む）
④Zoom操作の練習
（筆者がZoomをホストして、外国語授業内で接続・視聴確認、児童が指定のブレイクアウト・ルーム入退室する練習）
⑤交流当日のICT支援員勤務調整

※①②の許可が下りたところで、筆者と６年生２学級担任がオンライン会議を行い、交流日時と内容を調整した。それらを要項（資料１）としてまとめ、共有した。

・１学期：自己紹介
・２学期：町紹介
・形　態：最初と最後は全体ミーティングとして、中心は、ブレイクアウト・ルームで小学生と大学生の個別交流

〈大学側の準備〉

⑥交流要項の作成・調整
⑦端末・教室確保
（ハウリング防止のため、ペアで１台端末、教室内での十分な空間設定）
⑧ICT機器支援者、記録担当確保
（こスポ教員、教務助手、補助学生）
⑨進行表作成、学生指導

〈学生への事前指導〉

授業科目：小学校英語、対象：２年次学生
第４回授業　交流実施を予告、ペア決定
第５回授業　交流会進行表共有、リハーサル
予想されるやりとり練習

3-3　第１回交流会（第６回授業）

日時：令和４年５月27日（金）
13：45～14：20（６年１組－B班）
14：40～15：15（６年２組－A班）
教室：14402教室、14401教室、14403教室、14503教室、理科室、模擬教室
進行：次ページの「第６回レジュメ　交流授業学習指導案　兼　進行表」（資料２）による

全体で挨拶し、互いの教室の様子を見せたあとは、大学生も小学生も教室を移動して、ブレイクアウ

画面に向かって絵を見せている学生

ト・ルームに入室した。特に小学生が「名前を変更」することに慣れていなかったため、ルーム移動に時間をとられてしまった。トラブルもあったが、大学生は度胸と笑顔で小学生をリードしている様子であった。

3-4　第２回交流会（第18回授業）

日時：令和４年10月７日（金）
13：45〜14：20（６年１組－B班）
14：40〜15：15（６年２組－A班）
内容：Unit 6　This is my town.
（*Here We Go ！ 6*　光村図書）
「大学生に自分のまちをしょうかいしよう」
この単元では、小学生が作成したポスターを見せて、自分の町にあるものやそこでできることなどを紹介した。大学生には、Unit 5の内容である夏休みの思い出を語りつつ、各自の地元の様子を紹介した。
（教室、進行はほぼ同様のため、省略）

実施後の活動として、10月末のハロウィンに合わせて、学生から児童へハロウィンイラストをつけた英文カードを送った。学級担任からは、「大学生からメッセージをいただき、こちらが何も言わなくても辞書を使って、何と書いているか一生懸命に調べていました。」とのメールをいただいた。英語によるやりとりだけでなく児童が英語を読む活動にもつなげることができた。

ウォーミングアップ活動の様子

４．交流後の感想の考察

〈教員としての資質の観点から〉

中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』を担う教師の育成・採用・研修等の在り方について〜『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成〜」（2022年12月19日）[4] では、「新たな教師の学びの姿」として、「主体的な姿勢」、「継続的な学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」の４点が示された。現場経験のない学生であるため、「変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ自律的に学ぶという『主体的な姿勢』」と「求められる知識技能が変わっていくことを意識した『継続的な学び』」について、学生が交流から学んだことに関する記述から考察する。

4-1　主体的な姿勢

・児童は発表や発言の際に合っているのか、伝わっているのか不安に感じていることが伺えた。それに対してオーバーにリアクションを取ったり、質問してあげたりすることで児童に安心感を与えることができた。
・苦手な子がもっと嫌いにならないようにゆっくりな英語でわかりやすくし、楽しい授業をすること、発言しやすい空気をつくることが大切だ。
・言葉遣いを柔らかくするだけでも小学生はこちらに心を開いてくれるということ。
・伝えたいことを強調したり、繰り返したりすることで、聞き取ってもらいやすくなる。
・話すペースです。もう一度言ってくださいと言われたときに、一緒に教えていたメンバーから早口だと言われて気付きました。思ったよりも何倍もゆっくりと聞き取りやすいように話さないといけないと感じました。
・自分で勉強するよりも他者に指導する方が難しいということです。
・習った表現をもとに必死に伝えようとする努力が画面上からも伝わりました。英語で質問して

も単語だけではあるけれど答えてくれて、英語を聞く力が備わっていると感じました。
・勉強に対する真っ直ぐな姿勢や分からないこともなんとかして分かろうとする姿勢は見習わなければならない。

これらの記述から、学習指導要領の「聞くこと」において前提条件となる「ゆっくりはっきりと話す」ことの必要性を感じている。また、同様に、相手の反応を確かめながら話したり、相手が言ったことを共感的に受け止める言葉を繰り返しながら聞いたりする相手意識を十分に体験したと考えられる。

4-2　継続的な学び

・様々な子どもがいました。進んで取り組んでくれる子もいれば、人見知りでなかなか取り組んでくれない子もいました。なかなか取り組んでくれない子を否定するのではなく、どのようなことをすれば、興味関心をもってもらえるのか、理解してもらうためにはどのようにすればいいのかを学びました。
・児童が英語の授業が楽しいと思えるよう、授業の工夫やチャンツ、手遊びなどを覚えていきたい。
・質問１つにしても、児童が興味をもつような問いかけをするべきだと学んだ。
・自分が小学生だった時よりも話せる子が多く、自分ももっとClassroom Englishを勉強していかなければならないと思いました。
・自分の伝えたい英語が伝わらなかったときに正確に素早くもっとわかりやすい英語に変える力が必要。
・児童が一生懸命に話してくれた英語に対して、もう少し英語のレパートリーがなければいけない。
・英語でのその場の対応力・準備力と、わかりやすく聞き取ってもらうためのジェスチャーやコミュニケーションしようとする態度（笑顔）が大切だということを学んだ。
・英語ではなく根本的にあまり話すのが得意ではない子と話す機会があり、グループ活動などを通してやるのはたくさんの人が話せる機会ができるのでよいと思いました。
・児童の発言のあとの反応を英語で伝えることで、英語に触れる機会を作ることが大切だと学んだ。
・実際に交流してみると時間が足らず、伝わらない部分があって、スムーズにはいかなかったのでその部分も想定した上で次からは臨んでいきたい。
・自分たちの時よりもレベルが上がっていて、リスニングに慣れていて、簡単な単語がほとんど使えていて教える立場になるに当たり使い方や指導法のレベルを上げなければいけないと感じた。
・ICTの活用、特に交流など電波を介しての活動は十分な準備と理解、トラブルに対する備えと対応力が必要であるということ。
・より高度な学習を行っていることを実際に見て、そういったICT機器の使い方に関する知識の学習をもっと進めていくことが必要だ。
・もう少し小学生の試行を先読みして対応できる力をつけていればスムーズになったと後悔した活動でした。次から準備して対応できるようにしたい。

分類してみると、興味・関心をもたせる工夫、Classroom Englishや単語、簡単な表現に言い換える等の知識・技能、児童理解、計画立案、ICT機器操作等に気付いている。

交流で大学生の英語力が向上するものではないが、小学生と英語を使ってやり取りをしたことで、指示などをする英語表現不足や相手に理解してもらうためには話す速度やジェスチャーや笑顔などの非言語コミュニケーションの有効性などを体験することができたと思われる。

教室全体をzoom画面に映して、代表児童から大学生に質問したり、児童一人一人が画面のこちらにいる大学生にプレゼンしたりする方法も考え

られたが、その方法では児童に過度の緊張を与え、大学生にとっては自分事になりにくいと考え、個別の交流形態をとった。このため、学生自身も児童から英語を引き出そうとして、自分の知識を総動員して取り組んだとの感想があった。２回目の交流でも、普段教室では見せない優しい表情で児童と英語でやりとりをしていた。

4-3　課　題

予想していたものの、端末同士のハウリング発生が問題として残った。大学生がイヤフォンを使っても、小学生の端末同士が緩衝し合うこともあった。そして当然であるが、機器の操作に慣れていないことによるトラブルもあった。

また、学生が教員となってこうした交流を実施するには、教員側の進行表だけでは全体像を描くことが難しいため、もっと細かな計画が必要になってくる。指導対象の児童にとっても、次に何をするのか児童目線で分かる計画の必要性を感じた。

５．新たな交流

課題が明確になったところで、１・２回目と同じ市内にある別の小学校と交流する機会を得た。そこで、課題の解決を試みた。

5-1　ハウリング対策

音声問題は、互いにイヤフォンとイヤフォンスプリッター（オーディオ変換ケーブル）を使うことで解消できる。新しい交流先の英語専科教員は、クラス全体の交流経験をもっていたが、個別の交流経験はなかった。１つの教室に２台以上の端末がある場合にはハウリングが生じることを伝え、分配ケーブルを紹介したところ、用意してくれることになった。事前の操作練習でもハウリングが起きなかった。

図２　スプリッター（左：５分岐、右：２分岐）

5-2　進行表の改善

新たな交流でも学習指導案を作成しているが、ここではだれが何をすればいいのかを示す進行表を作成した。大学側だけでなく、小学校側の進行表も共有することで、計画的に実践することができた。

5-3　その他の工夫

①児童が話す回数を増やす工夫

この交流では、まずは、自己紹介を行い、次にミニポスターを使って将来の夢をプレゼンすることがメインの活動であった。英語専科教員から、１回だけなく、相手（聞いてくれる大学生）を替えて、何度も繰り返しプレゼンすることで自信をつけさせたいとの要望が出された。そのため、時間を調整しながら、自己紹介⇒将来の夢⇒フリートークを３回繰り返す計画を立てた。

②ブレイクアウト・ルームの入室方法

①と関連するが、対面であれば簡単にできる相手の交代もオンラインでは余計な操作が必要である。そこで、ブレイクアウト・ルームを割り当てるのではなく、大学生に番号を割り振っておき、児童があらかじめ指定されたルームに入っていく方法をとった。

この設定により、ホストを介さなくても時間になれば児童が次のルームに移動することが容易になった。

図３　Zoom画面、ホストによる設定が必要

６．おわりに

英語が得意ではない学生なりに小学生の実態に触れ、今後の英語を含めた学修に意欲的に取り組ませるために本実践に挑戦した。

機器トラブルを経験した学生は「ICTの活用、特に交流など電波を介しての活動には、充分な準備と理解、トラブルに対する備えと対応力が必要である」との感想をもった。これはICT活動指導力を向上させる原動力になっていくと期待している。また、「子どもたちが楽しく英語を学べるようにするためには、質問１つにしても子どもが興味を持つような問いかけをするべきだと学んだ。また、難しい英語を使うのではなく、簡単な英語を何個か組み合わせて伝えた方が理解しやすいことが実際に交流してみてわかった。」と述べた学生もいる。学んだことを生かして、今後の教科指導法での課題意識につなげていくと思われる。体験先の小学校では、当日学校を欠席した児童が自宅から交流に参加したとのことである。このことから、英語学習だけでなく、端末を活用して様々な活動に広がる可能性をもつ。ICT機器の活用は失敗しながらまず使ってみることが求められる。

学生が得た様々な知見をさらに高め、学生の学びに寄り添っていきたい。

引用・参考資料

１）文部科学省（2020）「外国語の指導におけるICTの活用について」
https://www.mext.go.jp/content/20201102-mxt_jogai01-000010146_009.pdf（2022.11.5アクセス）
２）文部科学省（2022）「令和３年度『英語教育実施状況調査』の結果について」
https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1415043_00001.htm （2022.11.5アクセス）
３）文部科学省（2017）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語活動・外国語編』（開隆堂）
４）「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00004.htm（2022.1.7アクセス）

資料１　第１回　オンライン交流案

小学生と大学生のオンライン交流会（5/18 案）

１　期日　　令和４年５月２７日（金）

２　交流時間　　小学校の授業開始から 10 分後

	小学校	大学
13:45～14:20	５時間目（13:35～14:20）	３限（12:55～14:25）
14:40～15:15	６時間目（14:30～15:15）	４限（14:40～16:10）

３限授業終了後すみやかに移動

３　プログラム

(1)説明（全体）（五十嵐担当）玉守先生・日野先生から補足

【学生は教室移動】

(2)グループ：自己紹介タイム

(3)グループ：絵本読み聞かせ

【学生はもとの教室に戻る】

(4)まとめ(全体)　何人かを指名して、感想を伝え合う（日本語）

４　形態

(1)はじめとまとめは、全体で行う。(児童 37 人、大学生　３限 38 人、４限 44 人)
先生方を入れて、最大で 83 人

(2)小学生と大学生が４～５人のグループを作って、ブレークアウトルームで自己紹介し合う。

・５時間目：37 人＋38 人を 18 グループに分ける

・６時間目：37 人＋44 人を 18 グループに分ける

(3)グループをスムーズに分けるため、児童を 18 グループに分けていただいた上で、アルファベット a から p に振り分けてください。また、そのグループアルファベットをつけた状態で「名前の変更」をお願いします。

「f　Ikarashi Hiroko」または、「f　五十嵐浩子」

５　その他

＊大学生は各自の端末で参加、教室を移動して少しでも聞こえやすくするために、

３限　14402、14401、14403、理科室に分かれる

４限　14402、14403、14503、理科室に分かれる

＊5/20 の授業で、自己紹介および絵本について調整する

小学校英語　　第６回レジュメ　　交流授業　学習指導略案　兼　進行表

日　時　令和４年５月27日（金）
第６学年１組　13:45～14:20
第６学年２組　14:40～15:15
学　級　大阪府Ｔ市立Ｋ小学校第６学年児童
こどもスポーツ教育学科第２学年学生

１　授業内容　(1)第６学年児童が英語を使って自分のことをよく知ってもらうために、自分のことを知らない相手（本学学生）に自己紹介を行う。学生は、自己紹介の聞き手になると同時に、学生からも児童に英語で自己紹介を行う。
(2)学生は、交流の記念に英語絵本を読み聞かせ、絵本の内容をもとに登校前のルーティンを聞き取ってもらったり、児童にも言ってもらったりする。

２　本時の展開

時間	○児童の活動	◇授業者・●学生の指導／☆留意点
5	○あいさつ	◇あいさつ ◇交流のきっかけ、本時の活動の概要を伝える ☆オンラインによるやりとりなので、ゆっくりはっきり話す。 ☆約束事を伝える（互いにわかろうと努力すること、スクショを撮らないことなど）
	○端末がある場所に移動し、起動させる	◇●児童が準備できるまで待つ
	ブレイクアウトルームに参加する	◇ブレイクアウトルームに分ける
10	○大学生の説明を聞く	●児童にあいさつする 例：Hello.　How are you? It's raining in Tokyo.　How is the weather in Osaka? ●大学生から順番自己紹介する 例：Now let's talk together, OK? My turn.　Listen. ☆反応を確かめながら、ゆっくり話す ☆１人終わったら、 「質問はありますか、Any questions?」と児童に尋ねる
	○クラゲチャートを見せながら、自己紹介を伝える	●児童の自己紹介を聞く ☆同じものが好きな場合には、“名前，Ｉlike …, too.” 聞き逃したときには、“Your birthday is …, right?” など確かめ、英語によるやりとりをリードする ☆野球好きの児童への追加質問例 Who is your favorite player? Are you a fan of the Tigers？ ほかに How do you spell your name？ Do you like your school？などもある ☆氏名や好きなものは、必ずメモをとる
15	○絵本の読み聞かせを聞く	●絵本の表紙を見せる ☆It's story time, OK?などと話して、絵本の表紙を見せ、What can you see?と尋ねる。児童が日本語でも受け止める ☆本のタイトルを伝え、「学校に行く前に主人公のポテトくんがすることを聞いてみよう」と説明する ●絵本を読み聞かせる ☆絵本が見やすいように絵本ｺﾋﾟｰの映り具合を調整しながら、児童の反応を見ながら、ゆっくりはっきり読む
	○最後のルーティンについて、言えるところだけでも言ってみる	☆最後のページでは、「言えるところは、一緒に言ってみよう」と促す
	○ワークシートに取り組む	●手元のワークシートを見せ、記名を指示する Please write your name here. ☆書いた名前をカメラに近づけるように日本語で促す ６年生のローマ字書字を理解するために必ず行う ●ワークシートの指示文(1)を読んで、児童に順番を考えさせる ☆もう一度読んでほしいと言われたら、笑顔で読む。 Again？　Sure!　Listen. ☆答えを伝えてやること ●ワークシートの該当部分をカメラに移し、指示文(2)を読んで、大学生のルーティンを聞き取らせる 「ベッドを出てから何をするか、聞いてね。 その順番に１から５の数字を書いてください。いいですか、始めます」 ☆答えを尋ねる
	○児童自身の朝の支度を順番に英語で話す	●「It's your turn. 今度は、皆さんが起きてから学校に行くまでのことを英語で伝えてください、分からないところは手伝うから、大丈夫ですよ。」 ☆言いよどんだら、優しく英語を教える ☆スラスラ言っていたら、 （名前），you wake up, get out of bed, …, right? のように、聞き取ったことを返してやる ☆同じ順番だったなど、反応を返すこと ☆児童が終わったら、五十嵐に「終わりました」とチャットを送り、ブレイクアウトセッションの終わりを待つ、児童とおしゃべりする、黙っていたらダメ！
	教室に戻る	◇全体画面に戻す
5	○担任の先生に指名された児童が感想を述べる ○あいさつする　　終了	◇まとめ ◇数人を指名して、交流会の感想を共有する ●互いにあいさつ、See you.　Goodbye！

資料３（上）交流先小学校の進行表　（下）筆者が作成した進行表

2022年11月29日(火)国士舘大学-取石小学校オンライン交流会　進行用

◎6-2用 https://zoom.us/j/96169978864?pwd=aWVGeWdKaHB1MTNNRDloRVUwaXBNUT09　ミーティングID: 961 6997 8864
パスコード: 466884

6－2　3時間目(10:45-11:30)　敬称略

	全体の流れ		根本	内田	砂田	岡本	ICT支援員①	ICT支援員②	ICT支援員③	国士舘大学	
10:25	交流会準備		国士舘大学と接続	6－2で待機	定刻までの着席を促す	6－2で待機	6－2で待機	6－2で待機	6－2で待機	取小と接続	
10:45	教室	授業開始 zoomログイン あいさつ	流れの説明 ログイン指示 挨拶	自機ログイン ログイン/マイクOFF支援	自機ログイン ログイン/マイクOFF支援	自機ログイン ログイン/マイクOFF支援	ログイン/マイクOFF支援	ログイン/マイクOFF支援	ログイン/マイクOFF支援	ブレイクアウトR作成 児童と挨拶	
10:52	教室移動		6－2	児童会室	図書室	理科室	6－2 児童会室	図書室	理科室	ブレイクアウトRオープン	
	班		① ②	③ ④	⑤ ⑥ ⑦	⑧ ⑨ ⑩	①②③④	⑤ ⑥ ⑦	⑧ ⑨ ⑩		
	各教室	ブレイクアウト入室 録画開始	セッティング/入室支援 入室確認	セッティング/入室支援 録画支援	セッティング/入室支援 録画支援	セッティング/入室支援 録画支援	セッティング/入室支援 録画支援	セッティング/入室支援 録画支援	セッティング/入室支援 録画支援	入室待ち	
11:00	各教室	交流会開始 ①自己紹介 ②将来の夢 ③フリートーク（好きなもの/できること/週末/行きたい場所など） ④お礼	Rチェック 児童支援 タイムキープ	児童支援 タイムキープ	児童支援 タイムキープ	児童支援 タイムキープ	児童支援	児童支援	児童支援	(学)交流 終了1分前にアナウンス	
11:20	各教室	録画停止 メインRへ	教室へ戻るよう指示	教室へ誘導	教室へ誘導	教室へ誘導	教室へ	教室へ	教室へ	ブレイクアウトR閉じる	タブレット閉じない
11:22	教室移動		教室待機	6－2教室へ							
11:25 11:30	教室	ふりかえり お礼 録画提出 終了	進行	児童支援	児童支援	児童支援	ICT支援	ICT支援	ICT支援	(学)コメント ルーム閉鎖	11/25 作成:根本孝女

2022.11.29(火)取石小学校-国士舘大学オンライン交流会　進行表

6－2　3時間目(10:45-11:30)
https://zoom.us/j/96169978864?pwd=aWVGeWdKaHB1MTNNRDloRVUwaXBNUT09　ミーティング ID: 961 6997 8864
パスコード: 466884

	全体の流れ	取石小学校		国士舘大学	
		根本先生ほか	児童	参加学生	五十嵐
10:25	交流会準備	接続	6－2待機	10:30　14402 集合	接続、zoom 開く PC とタブレット使用
10:45	授業開始 Zoomログイン あいさつ	流れの説明 ログイン指示 挨拶	児童 PC ログイン zoom ログイン、マイク off 簡単なルーティン質問に答える	PC ログイン zoom ログイン 全体であいさつ	ブレイクアウト R(以下 BR)作成 児童にあいさつ
10:52	教室移動 録画開始	指示 担当教室でセッティング/入室・録画支援	教室(6－2, 児童会室、図書室、理科室) BR 入室、録画設定	BR を選択・入室 児童を待つ 録画ボタン ON	BR 移動の支援 待機
11:00	交流会開始 ①自己紹介 ②将来の夢 ③フリートーク ④お礼 ⑤部屋移動	BR チェック 児童支援 タイムキープ	①自己紹介 ②ポスター見せながら、将来の夢を発表 ③フリートーク これを3回繰り返す 録画終了 タブレットは閉じない	始まる前にスマホで5分カウント 参考資料(別紙)を見ながら ①自己紹介 ②児童の将来の夢を聞く 自分たちの夢も簡単に伝える ③フリートーク 5分たったら、児童に挨拶して、次の BR へ移動する(別紙参照) これを3回繰り返す 最後のグループに「クロームブックを開けたまま、教室に戻ります」と伝える。録画終了ボタン	各 BR を回って、見守り BR は指定したルーム1～10に自分で移動する形式です。 例えば、ルーム1→2→3のように移動します。大学生は、異なる3つのグループの将来の夢を聞きます。
11:20	録画停止 教室移動	教室待機	教室移動	待機	終了1分前にアナウンスと表示、BR 閉じる
11:25	振り返り	進行	代表児童一言、お礼 録画提出	代表学生から一言、あいさつ 6－1に向けた準備	